

ニガウリ「宮崎つやみどり」のアコーディオン誘引栽培方法

抑制栽培では週5日交配すると収量が多くなる

背景・目的

- ニガウリのアコーディオン誘引は、採光性が良く省力的な誘引方法として導入されています。
- しかし、適切な栽培方法については確立されていません。
- ニガウリ「宮崎つやみどり」の抑制栽培におけるアコーディオン誘引に適した交配頻度の検討をおこないました。

成果の内容

- A品、可販果収量ともに週5日交配が最も多くなります(表1)。
- A品率は約90%、可販果率は約94%になります(表1)。

表1 収量(kg/a)

区名	A品収量		A品率 重量%	可販果収量		可販果率 重量%	総収量	
	本数/a	kg/a		本数/a	kg/a		本数/a	kg/a
週5日交配	1,410	313	90.6%	1,470	325	93.9%	1,626	346
週3日交配	906	205	89.4%	954	216	94.0%	1,074	230
週2日交配	858	192	90.3%	906	202	95.0%	990	212

収穫期間:2014年11月25日から2015年1月30日



成果の活用方法(又は期待される効果)

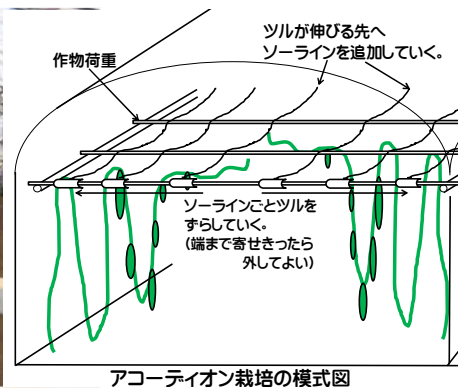
- ニガウリ「宮崎つやみどり」の抑制栽培におけるアコーディオン栽培は採光性が良く、生産能力を引き出すことが出来るため、安定生産と品質向上が期待できます。



摘芯栽培
(日当たりに差がある)



アコーディオン栽培
(一日中、日当たりが良い)



アコーディオン栽培の模式図

- 普及対象地域・面積 この技術は、県内全域のニガウリ産地で活用可能です。

留意点

- 開花数が多く連続着果すると、曲がり果の発生が増えるため、交配節をあける等、注意が必要です。
- 抑制栽培におけるアコーディオン誘引による結果です。